

Menu

- ▶ インフルエンザの歴史
- ▶ インフルエンザとは
 - 特徴
 - インフルエンザウイルス
 - 感染経路
 - なぜ毎年流行するのか
- ▶ 予防対策
 - ▶ うがい
 - ▶ 手指衛生（手洗い・手指消毒）
 - ▶ マスク
 - ▶ 環境の洗浄・管理
 - ▶ ワクチン
 - ▶ 睡眠・栄養
 - ▶ 健康管理
- ▶ かかってしまったら
- ▶ 製品情報
- ▶ リンク集
- ▶ ポスター無料ダウンロード
- ▶ 最新情報配信！メルマガ（無料）



インフルエンザ

感染経路

インフルエンザの感染の多くは、飛沫感染によると考えられています。また、接触感染や空気感染による感染も成立すると考えられています。

「飛沫感染」

感染者のくしゃみや咳によって、インフルエンザウイルスを含んだ気道分泌物の小粒子が周囲に飛び散ります。この小粒子を飛沫といい、その数は、1回のくしゃみで約200万個、咳で約10万個といわれます。粒子は比較的大きいのですが、感染者からおよそ1~1.5メートルの距離であれば、直接に周囲の人の呼吸器に侵入してウイルスの感染が起こります。また、目などの粘膜から直接侵入することもあるようです。

「接触感染」

飛沫に汚染された環境表面やモノなどに触れることによってウイルスが付着した手を介する感染です。手についたウイルスを目や鼻、口などに無意識にもっていくことにより、粘膜からウイルスが侵入します。ウイルスは乾燥した環境中では長時間生きつづけることができるので、感染者が使用した電話やドアノブ、食器、交通機関のつり革などにウイルスが付着して、後からそれを触ったヒトに感染が起こり、広がる可能性があります。

「空気感染」

飛沫から水分の飛んだ、ごく細かい粒子（飛沫核）が長い間空中に浮遊するために、感染者と同じ空間にいる人がウイルスを吸入することによって起こる感染です。飛沫核感染とも言われます。狭い気密な部屋などでは粒子が比較的長く浮遊することがあり、空気が低温で乾燥していると、ウイルスはより長く感染性を持ち続けています。このような条件がそろえば空気感染が起こることがあると思われます。空気感染を防ぐ上では、空調や換気、温湿度の管理などが重要です。

飛沫と飛沫核の違い

	飛沫	飛沫核
感染様式	飛沫感染	空気感染
直径	5μm以上	5μm以下
落下速度	30~80 c m/sec	0.06m~1.5 c m/sec
周囲の水分	あり	なし
到達距離	短い（約1m）	長い

参考：米国CDC 隔離予防ガイドライン1996



製品情報

- 感染予防
- 食品衛生
- アメニティ
- 栄養改善
- パーソナルケア
- フードサービス編
- 給食編
- 食品工場編
- 量販編
- トイレ編
- 学校給食編

セミナー・展示会情報

- セミナー・学会情報
- 展示会情報
- レポート

製品導入事例

sanitation

- 食中毒予防教室
- FSP会
- sanitation会員限定ページ
- HACCP研修
- メルマガ会員募集
- 学校給食

サラヤ 福祉ナビ

- 福祉サービス別感染対策
- 専門家コラム
- 口腔ケア
- 栄養と食事
- お役立ちツール
- メールマガジンのご案内

感染と予防Web

- 感染予防の基本
- 感染症情報
- 感染症に関するQ&A
- 感染症専門家コラム
- 会員専用コーナー
- メールマガ購読・変更・解除

お問い合わせ

いのちをつなぐ

SARAYA

サラヤ株式会社

TEL:06-6797-2525 〒546-0013 大阪市東住吉区湯里2-2-8

利用規約 | 個人情報保護方針 | メルマガ・ソーシャルメディア

Copyright© 2006-2015 Saraya Co.,Ltd. All Rights Reserved.